

天 界

(第六卷)

第六十九號

大正十五年十一月

汎太平洋學術會議と天文学

(卷頭言)

本年十月三十日から東京に開かれる汎太平洋學術會議の第三回總會は我が國の學術史上、空前の一大盛事である。會は物理科と生物科の二部に分れ、主として太平洋に關係する諸方面の討議や研究が行はれるのであるが、今までこても、又、今回も、同様に、天文学に關係する研究討議題は極めて少なく、且つ何ごなく軽く取り扱はれてゐる。此の會議に天文学が重大なる地位を占めないのは一應其の理由が肯かれるやうに思はれる。何ごなれば、天文学の對象や問題は決して地球上の一國一地方に限られるものではなく、むしろ、總てが全世界人に共通な宇宙そのものゝ研究にあるからである。——しかし吾輩の見地に據れば、上記の理由で天文学上の或る諸問題を汎太平洋學術會議に於いて軽く見るのは著しい淺見である。

もも々々學問上の諸問題は、其の研究對象にもあり、又、其の研究方法にもある。天文学の對象たる天體そのものに関する限り、一太平洋の係はる問題は殆んど無ご言つて宜からう。しかし天文研究の方法論から見れば、今日、太平洋方面に關して討議さるべき問題は極めて多く、且つ重大である。——現代の天文觀測上に何人も堪ゆべからざる重大なる缺陷は天文臺が多く歐洲と北米に集中し、其他の地方に觀測設備が極めて不十分なここである。近年、南米や南亞に二三有力な設備が施されて、往昔以來の處女地なる南天の開拓が多少見るべき成績を齎しつゝ、あるは學界のため賀すべきである。しかし濠洲の天文学界が始めより振はず、近頃シドニー天文臺廢止なきの事があつて大勢は益々不振に傾き、又、廣い意味の東洋方面が觀測設備に於いて非常に貧弱であるため、諸天體の連續觀測を必要とする今日の學界に於いて遺憾の聲は至る所に高い。此等の件に關し、汎太平洋會議の使命は極めて重ご言はなければならぬ。よろしく吾が太平洋方面に廣く新天文臺の建設を多く求め、熱心に世界の輿論を喚起して進歩的设备を作るご共に、廣く此の方面のアマチュア天文家を奮起せしめ、以て現存の少數貧弱な諸天文臺と相援け相勵まし、全世界のために此の宇宙學を一日も早く完成したる設備の下に置くこを力むべきである。太平洋方面の國際會議に、天文学上の問題として此れ程重要なものは無ご言つて宜からう。(山本)